

# 解 答 速 報

## 藤田医科大学

## 一般選抜前期

## 英語

### 第1問

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6
(4)	(3)	(1)	(4)	(4)	(2)

### 第2問

問 1	(6)・(1)	Only <u>with your help would the project have been successful.</u>
問 2	(2)・(1)	I would hate <u>very much for her to treat me differently from the others.</u>
問 3	(4)・(5)	<u>May he get back home safe and sound.</u>
問 4	(6)・(2)	<u>I recommend that the host not have finished</u> the meal before the guests have.

### 第3問

問 1	問 2	問 3	問 4
(4)	(1)	(4)	(2)

### 第4問

問 1	問 2	問 3	問 4
(4)	(1)	(3)	(1)

### 第5問

問 1	前者は人間が生み出す発話や音楽に関わる音のシステムで、わずかな意味が備わった不連続な要素一式が組み合わされて多様な意味を伴う構造を形成するのに対して、他の動物の後者のシステムでは、特定の意味を持ったそれぞれの音が組み替えられて新たな意味を形成することはない。
問 2	(i) オスのザトウクジラが発する複雑な歌は、不連続な要素を配置して楽句や旋律を作っているという事例。
	(ii) ザトウクジラの歌の場合、不連続な要素の並びとその歌が表す意味の間には豊富な関係などなく、メスに対する性的な誘いやオス間の支配関係の誇示というように、常に同じ内容を表しているということ。
問 3	(i) DNA 鎖を構成する塩基は物質的に不変な構造であるのに対して、発話や音楽の音のシステムは、そのいかなる構成要素も、物理的構造が文脈の機能に応じて少しずつ変化するという違い。
	(ii) 音素の /l/ と /r/ は英語母語話者にとっては全く別の音のカテゴリーであるのに対して、日本語母語話者にとっては2種類の同じ音であって聞き取ることも発声することも難しいように、言語によって音とカテゴリーの対応付けが変わってしまうということ。
問 4	【か】

第6問

(1)	The urine is analyzed to assess [examine for] risk factors for mental illness such as [including] depression.
(2)	If the person [he] is at high risk, he should consult experts for precise diagnosis so that he can know what preventive measures to take in order not to develop one [the illness] in the future.
(3)	Thinking that it is not only humiliating but also unfamiliar [strange], people can't help resorting to online self-diagnosis. [別解] As people see it as unfamiliar [strange] as well as humiliating [unfamiliar, not to mention humiliating], they resort to self-diagnosis following [depending on / according to] information available online.

～講評～

第1問 文法4択問題。文法事項・イディオムの出題内容としては、文法書や語彙学習教材で目にするレベルであるが、問6は自信をもって選ぶには厳しいレベルの問題と言える。

第2問 整序問題。問1の仮定法条件と否定倒置、問3の祈願文、問4の recommend that S' (should) not have Vp.p. ～は文法系の問題でよく見る項目ではあるが、このように複合問題として出題された場合にも困らないように、日頃から文法事項を論理的におさえておきたい。問2の hate for S to do ～は目にするのが少ない構造だが、不定詞の意味上の主語という考えが浮かべば解答できる。very much の修飾の位置も合わせて考える必要があった。やはり一癖も二癖もある印象である。

第3問 「靴やペットに付着して室内に持ち込まれる汚染物質」についての英文。内容もわかりやすく選択肢の消去もしやすい問題だった。

第4問 「子供の近視矯正用に新たに開発された MiYOSMART という眼鏡」についての英文。こちらも第3問と同じく、内容もわかりやすく選択肢の消去もしやすい問題だった。

第5問 Aniruddh D. Patel 著 Music, Language, and the Brain の第2章 Sound Elements: Pitch and Timbre からの抜粋で、「発話音や音楽について人間の脳内に形成される枠組み」について述べる英文であった。理系の医学部志望者にとってあまり読み慣れていない言語論であったため、苦戦した受験生も多かったかもしれない。問3の(ii)が最たるもので、解答の根拠となる該当箇所は見つけやすいが、それを解答に仕上げるのが難しい問題もあった。

第6問 「精神疾患の簡易検査としての尿分析」についての英文で、英作文3題であった。例年より英作文箇所が短く、少し易化した印象であった。このあたりまでの表現レベルは身につけておきたいところ。

全体として、大問構成に変化はなかった。第3・4・6問がやや易化した。第1・2問は例年と同じレベル、第5問は例年通りかやや難化かというイメージである。合格には65%を目指したい。



メルマガ登録（無料）または LINE 公式アカウント友だち登録（無料）で全教科閲覧できます！  
メルマガ登録は左の QR コードから、LINE 友達登録は右の QR コードから行えます。



<p><b>渋谷校</b></p> <p>☎ 0120-142-760</p> <p>東京都渋谷区桜丘町 6-2</p>	<p><b>名古屋校</b></p> <p>☎ 0120-148-959</p> <p>名古屋市中村区名駅 2-41-5 CK20 名駅前ビル 2F</p>	<p><b>大阪校</b></p> <p>☎ 0120-142-767</p> <p>大阪府吹田市広芝町 4-3-4 江坂第1ビル 3F</p>
<p>個別専門館 <b>麹町校</b></p> <p>TEL : 050-1809-4751</p> <p>東京都千代田区二番町 8-20</p>	<p><b>ビッグバン京都校</b></p> <p>TEL : 075-746-4985</p> <p>京都市下京区下諏訪町 360</p>	<p><b>医特塾 阿佐谷本校</b></p> <p>TEL : 03-6279-9927</p> <p>東京都杉並区阿佐谷南 3-37-2 第二大同ビル 2F</p>